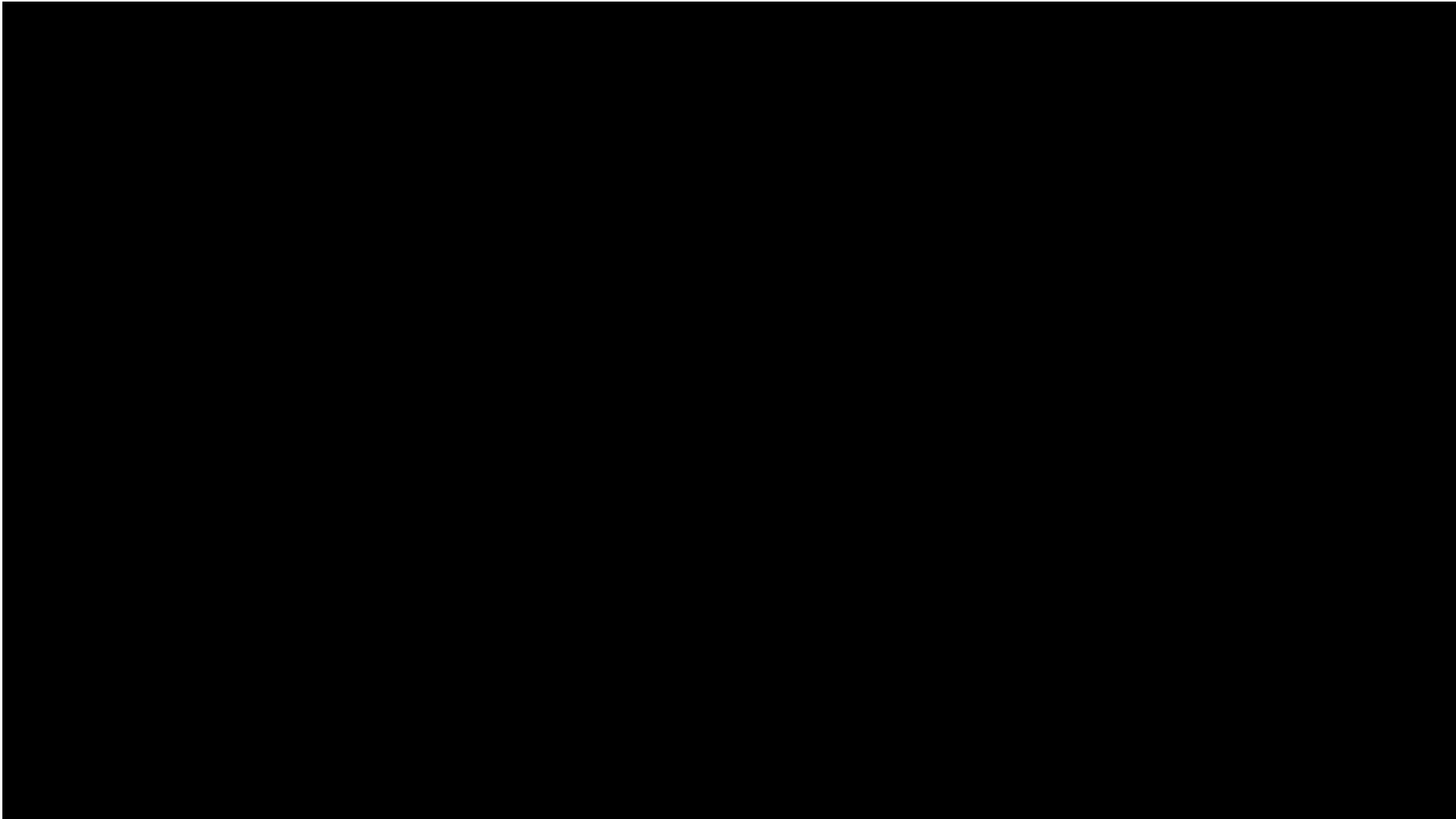




高齢者DXと交流館

令和6年度・伊達地区 集落支援員活動報告



2025年1月29日

伊達地区 集落支援員 富田 光



1. 今年度の主な活動



●地域情報の提供

- ・「はこふし」発行
- ・ホームページ作成



●町内会活動の支援

- ・懇談会開催
- ・支援情報の提供



●自治協議会活動の支援

- ・悪臭改善連絡会
- ・財務改善 ほか

New!

●地域市民DX事業





① スマホ・パソコン相談室



- ・ 毎週水曜日・午後
- ・ 分からないことは相談者と一緒に調べる。
検索用パソコンを用意
- ・ 昨年の主な相談
 - ・ 見たくない通知やSMSをブロックしたい。
 - ・ 使わないアプリや写真を削除したい
 - ・ LINEで孫と写真交換したい。
 - ・ ネット通販で買い物をしたいが、安全か心配。



② ロボット・プログラミング教室



- ・ 学習用ロボット mBot をみんなで組み立て、リモコンで操作してゲームを楽しむ。
- ・ iPadでスクラッチ言語を使って、mBotを動かす。
- ・ 新しい遊び方を考える。



③ 東交流館のネット環境整備



- ・新たにWi-Fiアクセスポイントを増設し、来館者に無料Wi-Fiを提供
- ・大型モニターを導入し、YouTube等で「こんにちは伊達」や市議会中継を玄関で放映



④ シニア e スポーツ教室



- ・ 高齢者の脳トレと交流増加を目的に、eスポーツ教室を開催。
- ・ 福島県eスポーツ振興協議会から機材と講師の派遣を受けた。
- ・ 市社会福祉協議会の後援による支援を受けた。
- ・ 今回の成果を生かし、今後、eスポーツの拡大をめざす。



2. 市民DX事業の2つの目的

① 地区交流館にもっと親しんで交流してほしい。



- ・ 各事業とも、一定の手ごたえは得られた。
- ・ 今後も継続していくことで、来館者の増加を目指す。

② 地域の高齢者のICTスキルを向上させたい。



・ **根本的な問題があることが分かった。**



3. 官民のDXの取り組み

●国のDX方針

- ・マイナンバーカードの多用途化
- ・自治体DX促進

●伊達市の取り組み

- ・各種ネット申込等
- ・スマホ教室・相談会
- ・コンビニ証明
- ・スマート窓口（2月3日から）
- ・リモート窓口（2月3日から）

●民間の取り組み

- ・受診・来店ネット予約
- ・スマホ決済
- ・マイナ保険証



高齢者は取り残され
感が強くなる



現在65歳以下の人
はますます便利に



4. ネットを使わない理由

スマホ相談室などで実感した「根本的な問題」とは・・・

●高齢者のスマホ所有率は8割を超えた

- ・しかし、主に電話にしか使っていない人が多い。

●時間かかかっても有人対応を望む

- ・失敗するのが怖いから
- ・新しいことを覚えるための準備が面倒だから
- ・「まだまだ」窓口や電話で対応してもらえるから
- ・思い立ったとき気軽に聞ける相手がない。
(面倒がられそう。遠くて、おっくう。有料)

サポートする場が
圧倒的に足りない！



5. 高齢者のICT学習

●身近で気軽に聞ける環境（しきいの低さ）

- ・ 距離的に身近であること。
- ・ 時間を気にせず行ける環境。
- ・ 行ったついでに、聞ける環境。
- ・ 失敗してもいい環境

●積極的なお誘いの声かけ

- ・ 「みんなでいっしょにどうですか」という誘い
- ・ 「〇〇さん、来てみない？」という個人的な誘い



- ・ 「来てみたら、楽しかった。」という体験
- ・ 「やったらできた」という達成感。
- ・ 「他の人にも教えたい」という広がり



6. 交流館の役割とは？

●国の市民DXの方針

- ・ 文科省は公民館に「デジタル教育の充実」を求める
※ 令和5年 第4期教育振興基本計画
- ・ 「デジタル技術は、地域コミュニティの持続可能な活動を支えるツールとして、市町村による支援も期待される。」
※ 令和5年 第33次地方制度調査会報告書

●交流館はどうするの？

- ・ 地域で、住民・高齢者のデジタル教育を担うのは誰？
- ・ デジタル教育のメニューはどう作るの？
- ・ 環境整備はどうするの？



6. 交流館の役割とは？

●国の市民DXの方針

- ・文科省は公民館に「デジタル教育の充実」を求める
※ 令和5年 第4期教育振興基本計画
- ・「デジタル技術は、地域コミュニティの持続可能な活動を支えるツールとして、市町村による支援も期待される。」
※ 令和5年 第33次地方制度調査会報告書

●交流館はどうするの？

- ・地域で、住民・高齢者のデジタル教育を担うのは誰？
- ・デジタル教育のコンテンツはどう作るの？



7. みんなが幸せになるICT

高齢者によりそえる地区交流館

- ・ 交流館は住民・高齢者に最も身近な施設でありたい
- ・ スマホもICTも怖くないことを知ってもらえる場所
- ・ 「リモート窓口」を交流館にも設置できないか？
- ・ いつでも相談に応じられる体制を模索する

ありがとうございました